

議事録

名 称	第2回 目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
日 時	令和7年5月7日（水）18:00～20:00
場 所	目黒区役所総合庁舎 地下1階 第二建築調整室
出席者	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 助教 栗田和弥 氏
	NP0 法人 Green Connection TOKYO 代表理事 佐藤留美 氏
	東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科 坂井文 氏
	東京大学総合研究博物館研究事業協力者 須田真一 氏
	目黒区農業振興運営協議会会長 杉村昇一 氏
	NP0 法人 菅刈ネット21 理事長 坂本尚史 氏
	区民公募 石原令大 氏
	区民公募 中川求美 氏
	区民公募 吉川智美 氏
事務局	目黒区都市整備部みどり土木政策課 清水課長、三国係長、小路係長、角田氏、鶴田氏
	株式会社ポリテック・エイディディ 伴 氏、才木 氏（以下、PADD）
会議資料	・資料1：第1回懇話会意見対応案 ・資料2：新計画構成たたき台 ・資料3：計画の基本理念・将来像案、目標の設定について ・資料4：施策の進捗状況及び見直しの考え方 ・参考資料1：根拠データ 計画統合に係る他自治体事例 ・参考資料2：他自治体とのみどりの基本計画取組比較 ・参考資料3：R6公園利用実態調査 ・参考資料4：施策の進捗状況及び見直しの考え方 ・目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域改定に向けたご意見（アンケート）
【会議内容】 3. 議事 （1）前回の振り返り ・参考資料1でみどりの基本計画と生物多様性地域戦略を統合している他の自治体事例を紹介しているが、大部分がみどりの基本計画に生物多様性などの生き物要素を加えているだけであり、厳密には地域戦略ではない。 前提として「基本計画」と「地域戦略」では、目指す部分が異なり、計画は何をするかを定める、戦略は決めたうえでいつまでどうやって達成するかを目標としている。統合を行う際に「計画」なのか「戦略」なのか意識していかないと目的が曖昧となってしまう。（委員） ・事例をみるとみどりの基本計画という言葉を使っている自治体は多いが、生物多様性という言葉を使っている自治体は少ない。一方で目黒区では基本計画と地域戦略を並列としており、意欲的に進められるのではないかと思います（座長）。 ・参考資料1で計画を統合している自治体が記載されているが、隣接する世田谷区は目黒区と環境が類似しており、参考事例に追加したらどうか。（委員） ⇒参考資料1では、みどりの基本計画と生物多様性地域戦略を統合している事例をまとめており、	

名 称	第2回 目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
	基本計画と地域戦略を別々に策定している世田谷区は選定していない。(事務局) ・計画の統合が前提か？(委員) ⇒統合を前提に検討を進めている。(事務局)。 ・統合した良い事例がない中での先行モデルには、委員の方々の意見が重要になってくるのかと思う。(委員) ⇒現況の地域戦略でも活かせる素材は多くあり、統合の際はそこを薄めないようにし、地域戦略の積み残しも次の計画に引き継ぎ、他の自治体に先駆けた統合を図っていききたい。(事務局) ・統合した場合、基本計画と地域戦略を単純に合わせたものにはならないと思う。スリム化を図るとしても、ある程度のボリュームが必要となる。地域戦略には色々な資料・データがあるのでそれを別添としてまとめては如何か。(委員) ・資料2に記載されているが、資料編は別冊になるのか。(座長) ⇒別冊を作成するかはまだ検討中であるが、みどりの基本計画ではみどりの実態調査の報告書がまとまっているので、資料編も充実させていきたい。(事務局) ・現行計画の完成度は高く、この内容を薄めないように考えたいが、かといって分厚い冊子とするとも誰も手に取らなくなる。分冊化するか、WEBで公開するなど使う側のことも考えて検討する必要がある。(委員) ・現行計画はWEBで公開されているか。かつ用語解説も含めて検索ができるとよい。(座長) ⇒両計画とも区公式WEBで公開している。また、見やすい、手に取りやすいといった視点も含め最終成果物の形態も検討していきたい。(事務局)
	(2) 計画の基本理念・目標の設定 ・みどりの基本計画では質より量を、生物多様性地域戦略では量よりも質を重視している。どちらを重視するのか、そのバランス感が重要で、そこが明確にならないと統合した場合に却って分かり難くなる。逆にそこが明確になれば良い事例になりえると思う。(委員) ・課題のまとめに関して、民有地・公有地のみどりの課題があるが、改定にあたって、もう少し踏み込んだ具体的な方向性を示してほしい(委員)。 ・「将来像」と「目標・指標」の間に、将来像をどのように実現するか方針が必要だが、その部分が欠けている。結局は方針が決まらなないと何をやるのか見えてこない。(委員) ⇒ご指摘の通り方針が抜けている。次回、方針案をご提示する。(事務局) ⇒現行計画では方針の次に施策が細かく決まっているので、方針が決まれば統合に向けて見通しが立つと考える。(委員)。 ・参考資料2の目黒区と他区の比較では、緑被率、緑視率等の定番の比較で、菅刈公園での取組等の目黒区が他区よりリードしている部分が見えてこなかった。それがわかれば目標や方針の設定に活かせると思われる。(委員)。 ⇒他の自治体事例だけでなく目黒区の実態を組み込み、一つの表で示すと次回の議論に役立つのではないかと考える。(座長)。 ・港区で生物多様性のためのガイドラインを作って緑化計画協議に活用しているが、目黒区でもそ

名 称	第2回 目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
ういったものがあるのか。(委員) - 区ごとに面積、土地利用形態、人口など条件はさまざまだが、目標がそもそも条件にかみ合っていないパターンがある。例えば、墨田区では13%の緑被率を目標にしていたが、今ある土地や屋上を総動員しても目標を達成できないことが判明している。目標に具体性があるかを検討する必要があり、目標を達成している区について面積をどれぐらい増やせたのかなど具体の数字を参考にしながら、方針や目標を詰めていく必要がある。(委員)。 - 例えば、世田谷区はみどり33としてみどり率33%を目指しているが結果は減っており、それを考えると量だけでなく質も大切である。(座長) (3) 施策の進捗状況見直しの考え方 - 施策の見直しに関して現況の見直しに終始しており、新しく社会情勢に沿った考え方が組み込まれていないと感じた。例えば、懇談会前のワークショップでは、様々な社会課題（教育、児童福祉、防災、産業振興、地域振興、健康づくりなど）の解決に資するグリーンインフラのあり方について、いかに人々の暮らしの中で活かされていくのかという視点で話し合っていて非常に良い意見も出た。SDGsの目標のひとつにあるパートナーシップも重要な意味があり、今後、みどりの持つ機能を発揮するには多様な視点・立場の人とかかわっていくことが必要であり、みどりの基本計画と生物多様性地域戦略を統合していく上でも多様な視点が必要である。これまで目黒区では社会情勢に合わせてワークショップを行うなど最先端な取り組みを行ってきたがそれを感じられないのは残念である。(委員) ⇒本日ご提示した資料は、現行の施策や区の実践を示したものである。社会情勢に合わせて新しい施策が必要と考えており、今後、今回の懇話会や2月のワークショップで得られた意見を取り込み、新しい施策を検討していく。(事務局) - 新施策を作ることではなく、施策の体系そのものが10年前のみどりの基本計画と代わり映えしておらず、前時代的に感じられた。(委員) - 資料3の13ページに農地の保全活用とあるが、補足すると、目黒区の農家は農協に登録しているのは約70軒、その内実際に従事しているのは20軒ほどである。農地面積は相続関係等により減っており、現在1.88haとなっている。区に対しても、区民農園や体験農園の活用など提案している。収穫体験事業など資料記載の他に、目黒区の農家より、毎年区内の小中学校に大根を1t無償で提供しており、それもアピールになる。生産緑地指定の基準面積が300㎡以上であり、自宅の緑地が竹林と屋敷林も含めて300㎡あるため、現在指定に向けて動いている。(委員) - 質問だが、保存樹林と屋敷林の関係がよくわからないので教えてほしい。(委員) ⇒保存樹林は面積300㎡以上のみどりに覆われたエリアで、その中に屋敷林も含まれる。 (※補足：屋敷林とは農家などの母屋の防風を目的として植えられた樹林であり、屋敷林所有者からの申請を受け、保存樹林として区が指定を行っている。) 剪定等の維持管理について、区が助成を行っている。(事務局) - 施策の進捗状況に関して一件ずつ整理しており、見直し内容のイメージで観光ビジョン、基本計画、生物多様性など整理した上で、施策の共通項を整理するのは良いかと思う。ただ、今回の資料	

名 称	第2回 目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
	はあくまで現行計画の進捗状況を示したもので、今後の改定に向けて、生物多様性に関する項目の見直しやメニューの追加が課題と考える。この資料はみどりの基本計画のレビューだが、生物多様性地域戦略のレビューはあるのか。生物多様性地域戦略の冊子を見ると野鳥の確認種数などの短期目標があるが、そのあたりを含めてどのように評価するかの指標は必要である。(委員) ⇒生物多様性地域戦略の進捗報告としては一部であるが、みどりの基本計画の中でいえば生物多様性保全林の指定は地域戦略をベースとした事業と考えている。現行のみどりの基本計画は生物多様性地域戦略の策定後に作られたものなので生物多様性を意識して作成されているが、他の施策も整理して次回報告する。(事務局) ・仕事として生き物や自然環境の保全に関する案件を請け負っており、その視点で意見を申し上げると、小さなスケールでは保全的な視点で解決を図るが、目黒区という大きなスケールとなった場合、区として生き物を保全する意義や意味はなにか。その点と今の社会情勢や施策も合わせて、なぜ生き物を守るかの理由付けが必要である。特に都市緑地においては、みどりの機能は生物多様性のみではない中で、人間が生き物を守る意義や意味がないと区民の協力は得られない。例えば、公園単位であればその公園のコンセプトに合わせてアクションをするが、区全体としてもコンセプトが必要である。最近では都市緑地の機能としてメンタルヘルスが注目されており、生物多様性とも関係が深いが、どちらかに偏らせる必要はない。みどりの在り方や捉え方、利用する方の感じ方はあるが、目黒区としてみどりを守る意義や意味を明確にしておかないと、うまく進まないのではないか。(委員) ⇒複数の委員からご指摘いただいているが、方針の部分が抜けているため、新しい計画で整理し検討する必要があると感じている。(事務局) ・基本的な方針が抜けている。今回の意見を受けてみどりの基本計画と生物多様性地域戦略を統合した上で5つの方針の見直しはあるのか(委員)。 ⇒今の社会情勢にあった方針に見直しを行うことが計画を統合する意義になると思う。資料3の6ページに示されている基本計画と地域戦略のそれぞれの目標を単純に足し合わせるのではなく、目黒区にみどりやいきものがある意味を考えた新しい方向性を作れば、委員も議論しやすくなるのではないかと。(委員) ・施策の指標設定に、なしというものが多くある。最終的に「なし」は目標のゴールが見えないので、あまり好ましくないとされる。(座長) ・杉並区では保存樹木制度があるが、周りからの苦情もあって指定されても守り切れなかったり、民有地の間は維持できても公有地になったら伐採されたりと困っている。保存樹木制度は23区どこでもあるが民有地の小規模樹林を守る制度がほとんどなく、単木は守られても樹林地は守られない例がある。大きな樹林を守るのはもちろんだが、飛び石的に生き物の移動に資する小規模樹林も保全を検討しては如何か。(委員) ⇒目黒区では保存樹木制度をやっており、加えて、幹回りが80cm以上の樹木は保全協議の対象として、保存や移植、難しければそれに代わるみどりを確保するよう促している。(事務局) ・千代田区でも議題になっており、大径木は現行守られているが、次世代につながる小径木が守られておらず、将来的に大径木が枯れた際に次世代の大きな木が残らなくなる。そのため、将来の

名 称	第2回 目黒区みどりの基本計画及び目黒区生物多様性地域戦略懇話会
保存樹木として、大径木になる可能性がある小径木を調査しチェックしている。そのようなところも検討してほしい。(委員) ・生物多様性の保全の意識が区民全体に広がっていないと目黒区で方針を立てても波及しない。例えば、生物多様性の機能にはメンタルヘルスなどもあると思うが、他には何があるのか。(委員) ⇒都市緑地が持つ多面的な機能性をきちんと打ち出し、区民に示せば何かしら響くものがあると思う。そのような多様な機能を認識することで役割の割り振りもできる。人間社会があつてこそその生物多様性の保全であり、人間社会が健全に成り立つためにそれを支えるみどりが大切である。(委員) ・そこに住む目黒区民が生物多様性に関して考えることが重要であり、種が多ければいいというわけではない。例えば田んぼなどその例であり、環境が多様にあることが生き物にとっても、人にとっても、そして人のメンタル面にとっても多様な選択につながる。(座長) ⇒目黒区の駒場野公園には23区で唯一面的な田んぼがあり、誇らしいことである。(委員) ・屋上緑化をやりたいという企業のために区のサイトでマッチングできるようなシステムがあればいいと思う。(委員) ⇒新しいつながりの創出という意味でもいいかと思う。生物多様性国家戦略にも記述されているので国家戦略も意識することが重要である。(座長) ⇒緑化可能な場所が限られている都心部では、屋上緑化は生物多様性に貢献している。アダプト制度など作ってやりたい事業者を募り、制度を維持するのも効果的である。特に人口の多いところでは効果を得やすい。(委員) ・将来像の方針と施策の見直しは次回の懇話会に持ち越しか。(委員) →次回議論する。(事務局) 以 上	